

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2010-46942
(P2010-46942A)

(43) 公開日 平成22年3月4日(2010.3.4)

(51) Int.Cl.
B 4 2 D 5/04 (2006.01)
B 4 2 D 1/00 (2006.01)

F I
B 4 2 D 5/04 H
B 4 2 D 1/00 G

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2008-213924 (P2008-213924)	(71) 出願人	504391569
(22) 出願日	平成20年8月22日 (2008. 8. 22)		株式会社ブラウニー
			大阪府大阪市福島区福島七丁目9番17号
		(74) 代理人	100076406
			弁理士 杉本 勝徳
		(72) 発明者	崎中 宏司
			大阪市福島区福島七丁目9番17号 株式
			会社ブラウニー内

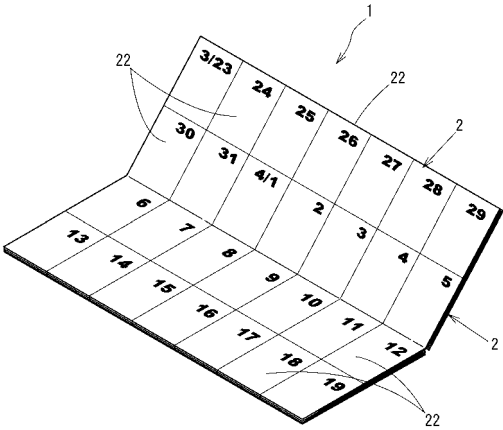
(54) 【発明の名称】 予定記入帳

(57) 【要約】

【課題】 予定記入欄に予定を横書きでも縦書きでも手軽に記入可能な手帳を提供する。

【解決手段】 月単位または週単位で日毎の予定等を記入するための予定記入欄が1頁または見開きの左右ページに記載された手帳において、前記予定記入欄には、罫線が所定間隔あけて複数掲載されるとともに、これら罫線間には、月単位または週単位の日毎の記入スペースが設けられ、この記入スペースの長さ方向一端側には、縦書き用日付部が設けられて、この縦書き用日付部には日付が縦書きで掲載され、また記入スペースの長さ方向他端側には、横書き用日付部が設けられて、この横書き日付部には、日付が縦書きで掲載され、更に罫線に対して直交する補助罫線が所定間隔開けて複数掲載されている。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

予定記入欄が掲載された長尺の予定記入紙と、この予定記入紙の長さ方向一端に接続される表表紙と、予定記入紙 2 の長さ方向他端に接続される裏表紙と、表表紙及び裏表紙にそれぞれ取り付けられる磁石から構成され、前記予定記入紙は蛇腹状に折畳まれ、蛇腹状に折畳まれた予定記入紙を挟んで、前記表表紙に取り付けた磁石を前記裏表紙に取り付けた磁石に吸着させるようにしていることを特徴とする予定記入帳。

【請求項 2】

前記予定記入紙の表面と裏面にそれぞれ前記予定記入欄が掲載されていることを特徴とすることを請求項 1 に記載の予定記入帳。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、日々の予定等を記入するための予定記入帳に関する。

【背景技術】

【0002】

一般にこの種の予定記入帳として、例えば、日々の予定を記入するための予定記入欄が見開きの左右頁にそれぞれ記載された手帳が見受けられる。（特許文献 1 参照）。

【0003】

しかしながら以上の手帳では、携帯には便利であるが、例えば記入した予定欄を見るために、冷蔵庫などに貼り付けることが困難であり、その都度手帳の予定欄を開いて、確認するしかなく、予定を即座に確認することが難しい。

20

【特許文献 1】 実用新案登録第 3 1 3 7 2 0 1 号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は、以上の実情に鑑みて開発したものであって、目的とするところは、例えば冷蔵庫のドアなどに所望のページを開いた状態で簡単且つ確実に取り付けることができ、しかも携帯も手軽な予定記入帳を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

30

【0005】

以上の目的を達成するために、請求項 1 に記載の発明は、予定記入欄が掲載された長尺の予定記入紙と、この予定記入紙の長さ方向一端に接続される表表紙と、予定記入紙 2 の長さ方向他端に接続される裏表紙と、表表紙及び裏表紙にそれぞれ取り付けられる磁石から構成され、前記予定記入紙は蛇腹状に折畳まれ、蛇腹状に折畳まれた予定記入紙を挟んで、前記表表紙に取り付けた磁石を前記裏表紙に取り付けた磁石に吸着させるようにしていることを特徴とする。

【0006】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の予定記入帳において、前記予定記入紙の表面と裏面にそれぞれ前記予定記入欄が掲載されていることを特徴とする。

40

【発明の効果】

【0007】

請求項 1 に記載の発明によれば、表表紙と裏表紙とで蛇腹状に折畳まれた予定記入紙を挟んで、表表紙に取り付けた磁石を裏表紙に取り付けた磁石に吸着させることにより、予定記入帳が不用意に開くようなことがなく、簡単かつ手軽に携帯することが出来、予定記入欄の所定の予定記入部を見たいときには、例えば表表紙を裏表紙に対して展開させるだけで、折畳まれている予定記入紙の予定記入欄の所望の個所を開くことができる。

【0008】

しかも本発明にかかる予定記入帳を例えば冷蔵庫のドアなどに取り付けて、所定の予定記入欄を開きたい場合には、折畳まれている所望の予定記入部を展開するとともに、それ

50

以外の予定記入部を折畳んだ状態で表表紙及び裏表紙の裏面側にそれぞれ重合させて、磁石5を冷蔵庫のドアに吸着させることで、所望の予定記入部のみが展開した状態でドアに確実に取り付けることが出来る。

【0009】

請求項2に記載の発明によれば、請求項1に記載の発明の効果に加え、予定記入紙の表と裏が利用されるので、蛇腹状に折畳まれる予定記入紙の全長を短く出来て、予定記入帳をそれだけ嵩低くすることが出来る。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、本発明にかかる予定記入帳の一実施形態を説明する。

10

【0011】

まず図1は予定記入帳を分解して示す表側の展開図、図2は予定記入帳の表側の展開図、図3は予定記入帳の裏側の展開斜視図、図4は折畳んだ状態の予定記入帳の斜視図、図5は、所定の予定記入部を開いた状態を示す予定記入帳の斜視図、図6及び図7は、予定記入帳の使用例を示す斜視図である。

【0012】

図において符号1で示す予定記入帳は、
予定記入欄21が掲載された長尺の予定記入紙2と、
この予定記入紙2の長さ方向一端に接続される表表紙3と、
予定記入紙2の長さ方向他端に接続される裏表紙4と、
表表紙3及び裏表紙4にそれぞれ取り付けられる磁石5から構成されている。

20

【0013】

予定記入紙2は、帯状に形成された紙葉20を蛇腹状に折畳んだものであって、この予定記入紙2の表面には、一年の前半の日々に対応する予定記入欄21が掲載されており、また予定記入紙2の裏面には、一年の後半の日々に対応する予定記入欄21が掲載されている。

【0014】

予定記入欄21中の日毎の予定記入部22は縦長とした長方形であって、実施形態では、図1にも示すように、横方向（予定記入紙2の幅方向）に一週間分、即ち、7日分の予定記入部22が横方向に並べられている。

30

【0015】

また、予定記入紙2の裏面に記載の予定記入部22は、予定記入紙2の表面に記載の予定記入部22とは上下逆方向に記載されている。

【0016】

そして、予定記入紙2は、紙葉20中の2週間分の予定記入部22に相当する部分毎に順次蛇腹状に折られるようにしている。

【0017】

またこの予定記入欄21は、図1にも示すように、月の最終日の予定記入部22に続いて次の月の予定記入部22が連続して掲載されている。

【0018】

表表紙3及び裏表紙4は、平面視長方形とした紙葉30・40を2つ折りにしたものであって、これら表表紙3及び裏表紙4は、2つに折った紙葉30・40の遊端部間に予定記入紙2の長さ方向両端部を介装して接着剤により接着することで、予定記入紙2の長さ方向両端部に接続されている。

40

【0019】

磁石5は、マグネットシートと称されるゴム製のシート状の磁石が用いられ、この磁石5を、表表紙3及び裏表紙4を構成する紙葉30・40を2つ折りにする前に紙葉30・40の内側面に貼り付けることで、2つ折りにした紙葉30・40内の中央に装填するようにしている。

【0020】

50

尚、磁石 5 は、前述のシート状の磁石に替えて、例えば磁力が強力なタブレット状の磁石を用いてもよい、

以上の構成からなる予定記入帳 1 を使用しない時には、図 4 に示すように、表表紙 3 と裏表紙 4 とで蛇腹状に折畳まれた予定記入紙 2 を挟んで、表表紙 3 に取り付けられた磁石 5 を裏表紙 4 に取り付けられた磁石 5 に吸着させるのであって、これにより、予定記入帳 1 は、不用意に開くようなことがなく、例えばバッグなどに入れて簡単かつ手軽に携帯することが出来る。

【0021】

また予定記入欄 2 1 の所定の予定記入部 2 2 を見たい場合には、図 5 に示すように、表表紙 3 または裏表紙 4 を裏表紙 4 または表表紙 3 に対して展開させて、折畳まれている予定記入紙 1 の予定記入欄 2 1 の所望の個所を開けばよい。

【0022】

次に以上の予定記入帳 1 を例えば冷蔵庫のドアなどに取り付けて、所定の予定記入欄 2 1 を開きたい場合について説明する。

【0023】

まず開きたい予定記入部 2 2 が予定記入紙 2 の表面側に記載されている場合は、図 6 に示すように、折畳まれている表側の所望の予定記入部 2 2 を展開するとともに、それ以外の予定記入部 2 2 を折畳んだ状態で表表紙 3 及び裏表紙 4 の裏面側にそれぞれ重合させて、磁石 5 を冷蔵庫のドアに吸着させることで、所望の予定記入部 2 2 のみが展開した状態でドアに取り付けられるのであって、この場合には、表表紙 3 が上で、裏表紙 4 が下となって、ドアに取り付けられる。

【0024】

一方、開きたい予定記入部 2 2 が予定記入紙 2 の裏面側に記載されている場合は、図 7 に示すように、裏面側の所望の予定記入部 2 2 を展開するとともに、それ以外の予定記入部 2 2 を折畳んだ状態で表表紙 3 及び裏表紙 4 の裏面側にそれぞれ重合させて、磁石 5 を冷蔵庫のドアに吸着させることで、所望の裏側の予定記入部 2 2 のみが展開した状態でドアに取り付けられるのであって、この場合、裏表紙 4 が上で、表表紙 3 が下となる。

【0025】

斯くして、以上の予定記入帳 1 を例えば冷蔵庫のドアなどに取り付けて用いる場合、予定記入部 2 2 必要な箇所のみが展開されて、不必要な予定記入部 2 2 は折畳まれた状態で冷蔵庫のドアなどに取り付けることができるので、予定記入部 2 2 に記載されている予定が見易いし、しかもその他の予定記入部 2 2 は、ばらけることなくドアに確実に保持することができる。

【0026】

以上の実施形態では、表表紙 3 及び裏表紙 4 を、平面視長方形とした紙葉 30・40 を 2 つ折りにしたものから形成したが、これに限定されるものではなく、図 8 及び図 9 に示す構成のものとしてもよい。

【0027】

即ち図 8 及び図 9 に示す表表紙 3 及び裏表紙 4 は、塩化ビニールシート材から袋状に形成した表紙本体 31・41 とこの表紙本体 31・41 内に装填された 2 枚の厚紙 32・42 と、表紙本体 31・41 の外面にウエルダー加工により組み付ける接続シート 33・43 とから構成されている。

【0028】

そして予定記入紙 2 の長さ方向両端部には円形の透孔 25 を形成し、予定記入紙 2 の透孔 25 形成部分を前記した表紙本体 31・41 と接続シート 33・43 との間に介装した上で、ウエルダー加工により、図 9 に示すように、透孔 25 を介して接続シート 33・43 を表紙本体 31・41 に熱溶着することで、予定記入紙 2 の長さ方向両端部に表表紙 3 及び裏表紙 4 を接続している。

【0029】

尚、磁石 5 は、厚紙 32・42 の一枚に形成した透孔 32a・42a に組み込んでいる

10

20

30

40

50

。

【0030】

以上の図8及び図9に示す実施形態の予定記入帳は、表紙本体31・41が塩化ビニールシート材から形成され、しかもこの表紙本体31・41内に厚紙32・42が装填されているので、表表紙3及び裏表紙4の剛性及び耐水性が充分確保され、予定記入帳の携帯がより行い易くなる。

【図面の簡単な説明】

【0031】

【図1】本発明にかかる予定記入帳の一実施形態を分解して示す表側の展開図。

【図2】同、予定記入帳の表側の展開図。

10

【図3】同、予定記入帳の裏側の展開斜視図。

【図4】折畳んだ状態の予定記入帳の斜視図。

【図5】所定の予定記入部を開いた状態を示す予定記入帳の斜視図。

【図6】予定記入帳の使用例を示す斜視図。

【図7】予定記入帳の使用例を示す斜視図。

【図8】本発明にかかる予定記入帳の別の実施形態を一部切り欠いて示す分解斜視図。

【図9】本発明にかかる予定記入帳の別の実施形態を一部切り欠いて示す斜視図。

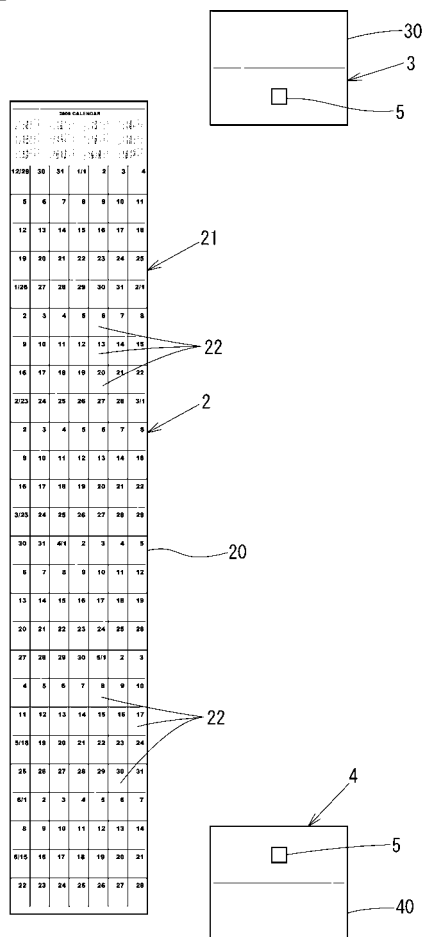
【符号の説明】

【0032】

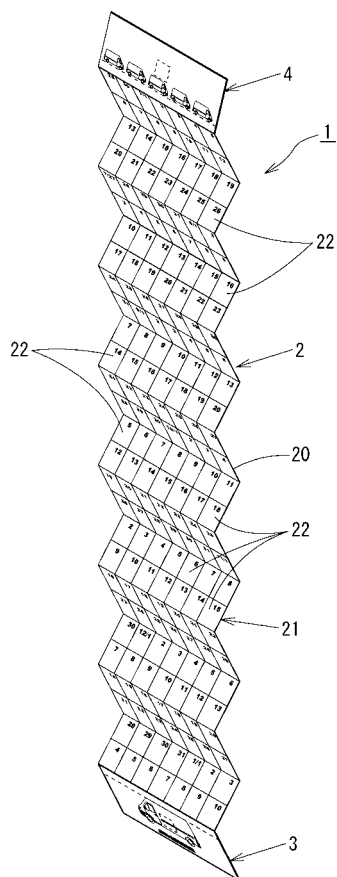
- | | |
|----|-------|
| 1 | 予定記入帳 |
| 2 | 予定記入紙 |
| 21 | 予定記入欄 |
| 22 | 予定記入部 |
| 3 | 表表紙 |
| 4 | 裏表紙 |
| 5 | 磁石 |

20

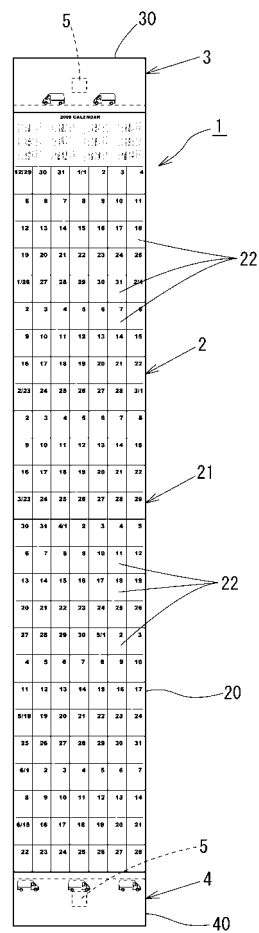
【図 1】



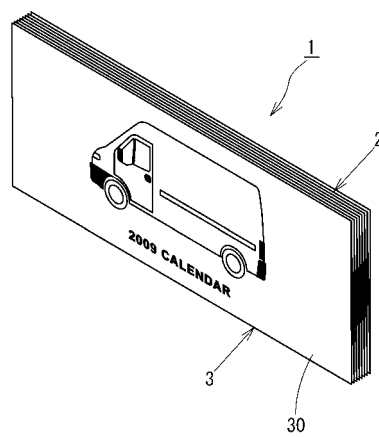
【図 3】



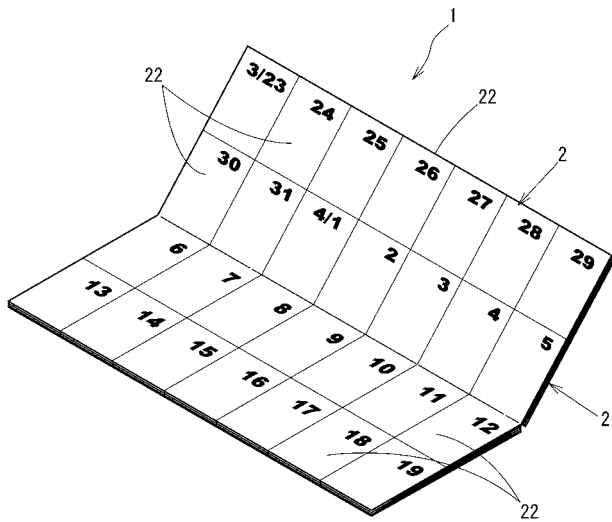
【図 2】



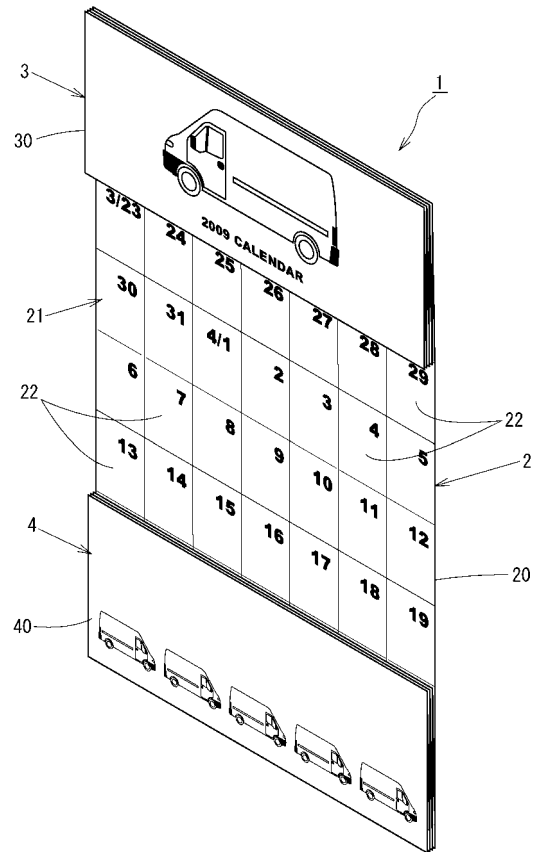
【図 4】



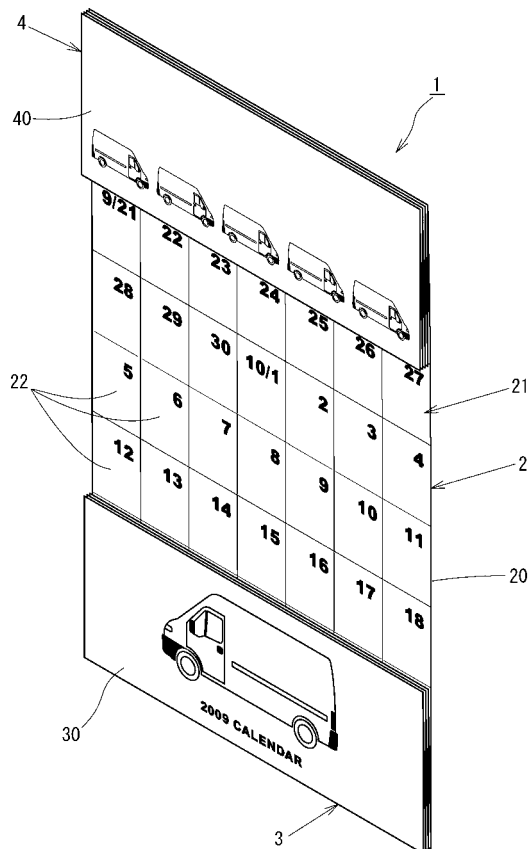
【図 5】



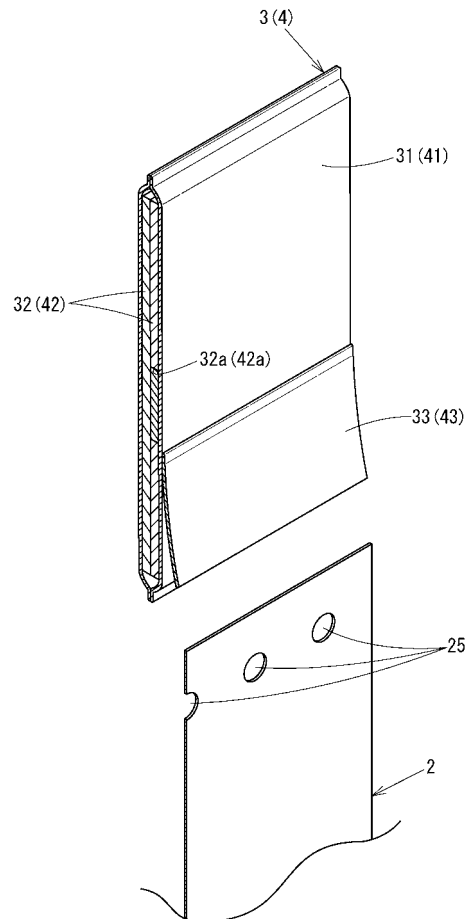
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

